

特別展

松浦武四郎の遍路

北海道人、四国を旅する

松浦武四郎（一八一八～一八八八）は、幕末に「蝦夷地」（現在の北海道）の調査を行い、明治時代には「蝦夷地」に変わる新たな名称「北加伊道」（字は「北海道」となる）を提案したことによって、「北海道の名付け親」として世に名を知られています。その一方で、武四郎は全国を歩き続けたことでも知られており、青年時代には四国遍路を行いつつ、四国も一周しています。武四郎はその記録を「四国遍路道中雑誌」（松浦武四郎記念館蔵、重要文化財）として弘化元年（一八四四）にまとめています。この資料は遍路のみならず、当時の四国の様子を知り得る貴重なものだといえます。

この展覧会では「四国遍路道中雑誌」の記述をもとに、四国各地の歴史と文化・風俗をさまざまな資料から御紹介します。松浦武四郎のみた四国を追体験で旅するように展覧会をお楽しみください。



「北海道の名付け親」

◎松浦武四郎肖像

明治15年(1882)頃撮影
松浦武四郎記念館蔵
(パネル展示)



武四郎が所蔵したアイヌの衣服

◎刺繍文衣

江戸時代～明治時代 松浦武四郎記念館蔵



若き武四郎の遍路記録

◎四国遍路道中雑誌

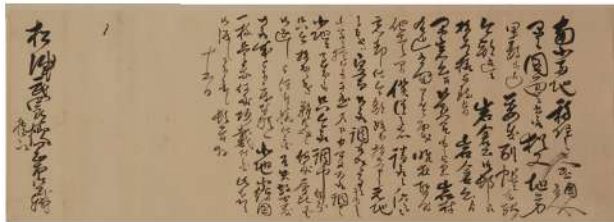
弘化元年(1844)
松浦武四郎記念館蔵



進む道を示す

懐中羅針盤

江戸時代後期～明治時代
松浦武四郎記念館蔵



武四郎に取り成しを依頼

◎岡本監輔書状(「遣芬」一)

明治2年(1869)頃
松浦武四郎記念館蔵



このあたりの人はずいぶん渡るけど…

祖谷葛橋図

大原東野筆 江戸時代後期
個人蔵(徳島博物館寄託)



桂浜から高知城下の入口まで

浦戸湾風景 江戸時代後期 高知県立高知城歴史博物館蔵

約300年前の松山城下へタイムトラベル

松山城下図屏風 景観年代：江戸時代中期 愛媛県歴史文化博物館蔵



◎印は重要文化財を示す